

各教科等部会概要

本研究計画作成試案では、県小教
研会員の誰もが内容を理解できるよ
うに、各部会でレイアウトや解説の
方法を工夫しています。

また、学習や研究を進める上で大
切にしたい事項を「各教科等部会概
要」という形で提案しています。

日常の学習指導や研究推進におい
て、十分に活用していただきますよ
うお願いします。

◆◆◆ 国 語 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

主体的・対話的に言語活動に取り組み、自らの学
びをつくり上げる子供

<授業実践の重点>

(1)子供の「問い」を想定した単元構想

子供がどのような「問い」をもつ可能性があるかを
重視する。これまでの学習状況に加え、子供が興味を
もつ傾向や、表現や叙述に気付く視点の有無等、既習
事項や生活経験に基づく考えの傾向を丁寧に把握
し、「どこで、何を、どのように調べたり考えたりす
るのか」を想定して単元構想を工夫する必要がある。

(2)考えの関係性の可視化

子供同士の考えを照らし合わせ、「どこが似ている
のか」「どこが違うのか」「根拠は何か」といった関
係性が見えるようにする。そのために、子供の学び
を把握し、子供がなぜそのような考えをもつのか、
その内なる考え（背景）を捉えることが大切である。

(3)考えの再構築

「考えの再構築」とは、他者と自分の考えを照ら
し合わせ、相手の考えの意味やよさを理解したり、
自分の思考がどのように変化したかを捉えたりし
て、より深い考えへと発展させていくことである。
そのために、教師は日頃から共感を大切に学級
経営を行うことや、話し合いにおいて新たな視点をも
つ子供の考えに立ち止まったり、互いの考えの意味
やよさを理解できるようにファシリテートしたりす
ることが重要である。

◆◆◆ 社 会 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

社会的事象に進んで関わり、社会的な見方・考え
方を働かせながら、考えを深めていく子供

<授業実践の重点>

(1)社会的事象に進んで関わる

子供は、社会的事象に出会い、学習を進めていく中
で調べたり、話し合ったり、体験したりしながら、自
分が感じていることや考えていることを確かめたり広
げたりする。「社会的事象に進んで関わる」とは、そう
した取組を通して新たな気付きや問いをもち、学習へ
の意欲を高めたり、異なる視点から考えたりしながら、
社会的事象を深く知ろうと主体的に関わる姿を指す。

(2)社会的な見方・考え方を働かせ、考えを深める

「社会的な見方・考え方を働かせ、考えを深める」
とは、問題解決の過程で、社会的な見方・考え方を働
かせながら社会的事象の特色や相互の関連、意味を多
角的に捉え、社会の中で使うことのできる応用性や汎
用性のある概念などに関する知識を獲得するなど、社
会生活に関する理解を深めていく子供の姿を指す。

(3)社会的な見方・考え方を働かせて資質・能力を身に付けていく学習過程の在り方

子供が、社会的な見方・考え方を働かせて資質・能
力を身に付けるためには問題解決的な学習の充実が
大切である。問題解決の見通しをもって友達と協働的
に取り組みながら社会的事象を多角的に捉え、考えを
深めていく学習過程を構想する手立てが必要である。

◆◆◆ 算 数 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

数理的な事象に主体的・対話的に働きかけ、自ら
の学びをつくり上げる子供

<授業実践の重点>

(1)数学的な見方・考え方を働かせる

「数学的な見方・考え方を働かせる」とは、事象
を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉
え、根拠を基に筋道を立てて考え、統一的・発展的
に考える姿とする。

(2)数学的に考える資質・能力を育成するための単元計画

領域を貫く大切な数学的な見方・考え方は何か、
この単元で子供はどのような数学的な見方・考え方を
働かせるのかといった視点から育成すべき数学的
に考える資質・能力を明確にしておくことが大切で
ある。また、子供がどんなことにつまずくかについ
て、教師がしっかり想定して、適切な手立てを講じ
ておくことも必要である。

(3)問いをもち、数的活動を通して考えを深めるための場の工夫

教師が、子供一人一人の発言やつぶやきから、そ
の子供の考えのもつ数値的価値を的確に捉え、立ち
止まり、考えのよさに気付けるように問い返したり、
子供同士の深い関わりが生まれるように、共通
の図で考えたり、考えを見つめ直す視点に気付く発
問を工夫したりする。個別最適な学びと協働的な学
びのバランスを考えていく必要がある。

◆◆◆ 理 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

自然の事物・現象についての問題を科学的に解決していく子供の育成

<授業実践の重点>

(1)理科の見方・考え方を働かせる

見方	領域	内容	考え方	内容
	エネルギー	量的・関係的		比較する
	粒子	質的・実体的		関係付ける
	生命	共通性・多様性		条件を制御する
	地球	時間的・空間的		多面的に考える

上記の見方・考え方を働かせて、問題解決に取り組む。

(2)主体的に問題解決に取り組み、理科の資質・能力を育成するための教材研究・単元構想

<教材研究>学習指導要領の分析、子供の実態把握、教材の吟味等を行い、育成したい資質・能力を明確にする。

<単元構想>問題解決の各場面において、一人一人の考えを尊重した展開を構想する。

(例)③の場面「一人一人の予想や仮説に応じた実験の実現」

(3)考えを科学的なものに変容させていくための「対話」の手立て

「考えや事象の比較」を通して、子供が共通点や差異点に気付けるようにしたり、考えの根拠を明確にしたりすることで、対話が有効に働き、子供の考えがより科学的なものに変容していくようにする。

◆◆ 生活科・総合的な学習の時間 ◆◆

<目指す子供の姿>

思いや願いの実現に向けて探究しながら、可能性を自ら拓いていく子供

<授業の重点>

「子供理解の原則」に立ち、子供が自己調整しながら探究のサイクルを回し、問題解決を図ることを目指して取り組む。

(1)思いや願いの実現に向けて探究しながら

学習材と子供が、働きかけ合う中で「知りたい」「考えたい」「やってみたい」と思いや願いが湧き上がる。自ら伸びていく存在である子供は、思いや願いの実現に向けて、解決すべき課題を見出し、多様な視点から粘り強く試行錯誤を繰り返す。一人一人の探究と協働的な学びを繰り返す中で自らの取組を見直し、自己調整しながら探究のサイクルを回していくこととする。

(2)可能性を自ら拓いていく

「可能性を自ら拓いていく」とは、子供の内面的な高まりや価値観の変化から新たな探究を生み出すこととする。

- よりよい課題解決を目指し「更なる納得を求める」
- 取組の成果から感じた自信や手応えから「よさや成長を実感する」
- 自分の生活について考えたり、見直したりするなど「自らの生き方を見つける」

◆◆◆ 音 楽 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

音楽的な見方・考え方を働かせ、音楽と豊かに関わろうとする子供

<授業実践の重点>

(1)音楽と豊かに関わるための題材構成や教材選択の工夫

音楽の構造等を分析し、〔共通事項〕を要として、各領域や分野との関連を図ったり、必要な知識及び技能を身に付けるための常時活動を取り入れたりする。

学校や地域の実態に応じて工夫したり、他教科等と関連させた学習を横断的に展開させたりするなど、多様な音楽とのつながりを子供が意識できるようにする。

(2)主体的・対話的で深い学びにつなげるための学習過程の工夫

自己の学習を見直ししながら思いを確かにしていく学習過程や、一人一人の思いや意図を引き出す学習環境の工夫が、子供の主体性につながり、意欲を高めるようにする。

一人一人が聴き取ったことと感じ取ったことを関連付けながら、対話を通じた交流で気付きを共有したり、ICTを活用した学び方の調整をしたり、感じ取ったことを共感できるようにする。

(3)一人一人のよさや可能性が生きる評価の工夫

授業の中での子供の発言や行動、表現等を瞬時に見取り、対話の中での問い返しや個別の指導に生かしたり、子供が願う表現をするために必要な指導を適宜行ったりするなど、指導に生かす評価を工夫する。

◆◆◆ 図画工作科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

造形的な見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わう子供

<授業実践の重点>

(1)造形的な見方・考え方を働かせる

「造形的な見方・考え方」とは、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色等の造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすことである。この見方・考え方を働かせ、つくりだす喜びを味わう姿を目指す。

(2)教材研究と題材構想の工夫

子供の発達の段階やそれまでの経験等を考慮し、子供自身が課題意識をもち、表したいことを見付けたり、どのように表すかについて考えたりするなどして、探究する意欲をもつことができるものであるかを考える。

(3)学習過程の工夫

発想や構想を繰り返しながらよりよい表現に生かす場、創造的な技能を高める場、自他の表現や取組のよさを感じ合う鑑賞の場等を工夫する。〔共通事項〕を視点とした言語活動や、教師からの声かけ、製作過程の記録等の手立てを工夫することで、子供が創作意欲を高めたり、自己の変容や学びを自覚したりできるようにする。

(4)指導と評価の一体化

フィールドマップ等の記録や振り返りを基に、製作の過程にも目を向け、子供の思いや願い、表したいこと等を踏まえて評価し、指導に生かす。

◆◆◆ 家 庭 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、家族の一員として生活をよりよくしようと工夫する子供

<授業実践の重点>

(1)生活の営みに係る見方・考え方を働かせる

「生活の営みに係る見方・考え方を働かせる」とは、家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために自ら生活の問題を見付けて課題を設定し、主体的に課題の解決に取り組む姿とする。

(2)実生活との関連を図った問題解決的な学習の充実

子供の思考の流れを大切に、計画、実践、評価・改善という一連の学習活動を重視した問題解決的な学習を充実させ、学習した内容を実際の生活に生かす場を設定する。さらに、子供がどんな見方・考え方を働かせているのかを見取り、問い返したり立ち止まったりすることで学習を確かなものしていく。

(3)評価方法の工夫

一人一人の観点別の学習状況を的確に捉え、個に応じた適切な指導や支援につなぐことができるように、「指導と評価の計画」を作成するとともに、適切な評価場面を選び、評価方法を工夫する。

◆◆◆ 体 育 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

- ・体育の見方・考え方を働かせ、運動の楽しさや喜びを求める子供（運動領域）
- ・保健の見方・考え方を働かせ、健康で安全な生活に向けて実践しようとする子供（保健領域）

<授業実践の重点>

(1)体育の見方・考え方を働かせる単元構想

体育の見方・考え方を働かせ、多様な「できる」を保障し、系統的な学びを大切にする。

(2)運動の楽しさや喜びにつながる教材研究

教材の特性を捉え、中心となる楽しさや喜びを設定する。また、「指導」と「支援」を見極めたり、ICT機器を効果的に活用したりする方法等に対する準備を重要視する。

(3)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

- ①自身の現状を把握し、達成したい目標や、次時につながる振り返りの場を設定することで、「個別最適な学び」を充実させる。
- ②効果的な手立てを講じて必要感のある対話を生み出したり、「言葉の共通理解」や「指導の明確化」等の対話の素地を高める支援をしたりすることで、「分かる」につながる対話がなされるようにする。

(4)運動領域との連携を図った保健領域の単元構想

獲得した知識・技能が実生活で生かせない難しさを授業で取り扱ったり、運動領域との関連のある学習内容に工夫したりする。

◆◆◆ 道 徳 科 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

主体的・対話的に自己の生き方についての考えを深め、よりよい生き方を求めようとする子供

<授業実践の重点>

(1)道徳的な見方・考え方を働かせる

「道徳的な見方・考え方を働かせる」とは、道徳的諸価値についての理解を基に、物事を多面的・多角的に考え、自己を見つめ、自己の生き方についての考えを深める姿である。

(2)子供の実態把握、内容項目の解釈、教材の分析を基にした主題の設定

主題の設定は、「子供の実態把握」「内容項目の解釈」「教材の分析」を往還させて行う。内容項目の解釈においては、内容項目を「関連」と「深層」の2軸で捉えていくことで、子供の反応を内容項目に照らして予測することができる。

(3)主体的・対話的な状況のある学習指導の構想

主題の設定と並行して、子供がどのような考え方をもつのか、どのような違いが生まれるかを想定しながら、内容項目に即した発問を考える。その上で、一人一人の考え方の違いが顕在化されるような、多様で柔軟な働きかけを行い、「主体的・対話的な状況のある学習の場」で自己の生き方について考えを深めていくことができるようにする。

◆◆ 外国語活動・外国語科 ◆◆

外国語による言語活動を通して、主体的・対話的にコミュニケーションを図ろうとする子供

<授業実践の重点>

(1)外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築する。

(2)指導計画の工夫

新しく出合う語句や表現に慣れ親しんだ上で、それらを用いて相手を意識して考えや気持ちを伝え合うなど、段階的に外国語に慣れ親しみ、コミュニケーションの意欲を高めることができるようにする。

(3)言語活動の充実

英語を使用し、互いの考えや気持ちを伝え合う必然性のある目的や場面、状況等を設定する。中学年では、コミュニケーションを図る楽しさを体験するとともに、新しい語句や表現との出会いの場を工夫する。高学年では、相手を意識し表現の工夫について考えられるようにする。

(4)評価の工夫

学習到達目標を年間指導計画に位置付ける。観点別の評価場面を精選し、評価基準をALT・JTEだけでなく、子供とも共有する。また、振り返りカードを活用し、子供が自己の学びを振り返り学習を進められるようにする。

◆◆◆ 特別活動 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

集団活動における主体的・対話的で深い学びを通して、自らよりよい生活や人間関係を築こうとする子供

<授業実践の重点>

(1) 集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる

「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせる」とは、各教科等における見方・考え方を総合的に働かせながら、自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画及び自己の実現に向けた実践に結び付ける姿とする。

(2) 主体的・対話的で深い学びを引き出す単元構想

学級活動における「主体的・対話的で深い学び」とは、子供が「自分で課題を見付け、共に考えて解決方法を見だし、実践して振り返る」という一連の活動を繰り返す中で、課題を解決していくことである。このような活動が展開できるように、SPDCAサイクルの積み重ねを意識し、各教科等の学習とも関連付けながら単元を構想する。

(3) 合意形成や意思決定に向けた、話し合い活動の支援

主に、学級会での合意形成に向けては、以下の三つの視点から支援を行う

- ・提案理由の共通理解
- ・合意形成に向かうプロセスにおける教師の出番
- ・合意形成の方法の理解と実践

このような視点に着目して話し合い活動を支援することで、子供たちが納得のいく結論を出せるようになる。

◆◆◆ 特別支援教育 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

「自らの学びとくらし」を豊かにしていく子供

<授業実践の重点>

(1) 教材の工夫

個別的教育支援計画や個別の指導計画を基に実態を丁寧に把握し、子供の願いや興味・関心、経験等の「強み」を生かした教材を選定する。身近な人・もの・ことを教材化して、子供が前向きに取り組むことができる教材を吟味する。また、課題・方法・手がかりが見通せるように提示を工夫する。

(2) 単元構想の工夫

子供の願いや感情、思考の道筋を想定して単元を構想する。自立活動の視点を重視し、子供が自分の困難さに気付き、改善や克服に向かって試行錯誤できるようにする。さらに、多様な学習形態を取り入れ、自己調整しながら学びを深める力を育てる。

(3) 指導と評価の一体化

子供の姿を丁寧に読み取り、力を発揮できる場面や有効な支援を把握して指導や支援の改善に生かす。発言・ノート・作品・学習の進め方・友達との関わり等、多面的な見取りを通して変容を捉え、次の学びへとつなげる。また、自己評価や相互評価を位置付け、学びの実感を言語化し、満足感や達成感、向上心等を基盤に意欲や自己調整する力を高めていく。

◆◆◆ 保 健 ◆◆◆

<目指す子供の姿>

主体的・対話的で深い学びを通して、健康で安全な生活を実践していく子供の育成

<授業実践の重点>

(1) カリキュラム・マネジメント

体育科保健領域や特別活動、総合的な学習の時間、その他関連する教科等をそれぞれの特質に応じて行った上で、相互に関連させて、指導できるように努める。

(2) 子供が主体的・対話的に健康で安全な生活を実践するための指導の工夫

子供が保健の見方・考え方を働かせ、健康で安全な生活を送るための課題を見付け、目標を立てて取り組めるようにする。

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話を通して、気付きを得たり、自らの考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。

(3) 子供の健康な発達を支える協力体制の充実

子供が主体的に取り組み、多様な他者と協働する意義を実感しながら継続して実践することができるよう、学校や家庭、地域社会が連携し、健康生活を支える体制の充実に努める。